

洗い皿使用模擬店企画

11月祭では模擬店を中心に膨大な使い捨て容器ごみが発生します。これらを適正にリサイクルすることも大切ですが、そもそも使い捨て容器のかわりに洗浄することでリユース可能な「洗い皿」を使えばそのようなごみは排出されません。

11月祭環境対策委員会では、京都大学生協吉田食堂や11月祭事務局の協力のもと「洗い皿使用模擬店企画」による使い捨て容器削減に取り組んでいます。



11月祭と洗い皿

11月祭における洗い皿の貸し出しは1991年「リサイクル社会を目指す会」によって始まりました。1993年の11月祭環境対策委員会発足以後も使い捨て容器の使用減量は重要な課題でありつづき毎年洗い皿の貸し出しが行われてきました。

2005年度以降は、模擬店企画の一つとなり「一般模擬店企画」と肩を並べる「洗い皿使用模擬店企画」として洗い皿の貸し出しが行われるようになりました。2008年度は18店舗の模擬店が洗い皿使用模擬店として出店しました。



11月祭環境対策委員会が所有する洗い皿

11月祭環境対策委員会では35種類、6,000枚以上の洗い皿を所有しています。購入した洗い皿もありますが、大半は食器製造メーカーや給食センターなどで役目を果たさなくなった食器を譲りうけたものです。

2008年は、関西合成樹脂工業株式会社さん（兵庫県姫路市）、株式会社ファーストフーズさん（京都市南区）より多くの食器をいただきました。



洗い皿の貸し出し・返却システム

11月祭における洗い皿の貸し出し・返却は、洗い皿使用模擬店と来場者の協力で成り立っています。洗い皿の洗浄が行われている吉田食堂と模擬店間の洗い皿の運搬は、洗い皿使用模擬店のスタッフが担当します。洗い皿での食事をしている来場者のみなさんには、食事を終えたら購入した模擬店まで洗い皿を返却していただくよう協力を呼びかけています。



洗い皿の洗浄システム

洗い皿の洗浄はすべて、京都大学生協吉田食堂にて洗浄機をお借りして行っています。洗浄作業には吉田食堂の職員の方、11月祭環境対策委員会スタッフに加え、洗い皿使用模擬店の方々にもシフト制（4日間で45分シフトが2回）で参加してもらっています。



洗い皿使用模擬店の声

洗い皿使用模擬店の方々を対象としたアンケートで寄せられた声をご紹介します。

- ・（洗い皿は）きれいで、食べやすい。
- ・見栄えがよかった。紙皿とちがってしっかりしているので使いやすかった。
- ・思ったほどの（作業）負担ではなかった。
- ・（洗い皿使用模擬店で）思い出をつくりたかった。
- ・使いやすいしごみの量が減っていいなと思いました。
- ・洗い皿使用模擬店の数を増やしたほうがいい。
- ・少し面倒な部分もあったが使いやすくてよかったと思う。
- ・部の伝統で洗い皿の使用を決めました。
- ・洗い皿の運搬が思っていたよりなかった。料理ものせやすかった。
- ・とてもよい企画だと思いました。環境の面でもいいですね。

アンケートに回答してくださった模擬店のみなさま、ありがとうございました。次年度以降も洗い皿使用模擬店企画への申請をお待ちしております。